

平和と戦争について知る

南風原高等支援学校一年 上原 穂乃花

私は、平和メッセージの作成を平和について考える機会になると思い、家族で対馬丸記念館へ行きました。

対馬丸記念館では、犠牲者が使っていたランドセル、筆箱、手紙、教科書、本、紙で作られた帽子、着物、昭和十九年の教室の再現がありました。

一九四四年七月十九日「沖縄県学童集団疎開準備要領」が出され、学校では親たちに対し子どもを疎開させることを強く求めました。それは、戦争が激しくなり、食料も足りなくなるからです。親たちは、子どもを乗せた疎開船が航海中に潜水艦におそわれる危険があると考え、とても心配しました。しかし一方で、沖縄にとどまれば、アメリカ軍の攻撃を受ける危険もあると考えました。どちらも命の危険を伴うことから、親たちは子どもを疎開させるかどうか悩み、苦しい決断をしなければなりませんでした。対馬丸に乗った人は一六六一名のうち犠牲者は、一四八四名、生存者はおおよそ二百八十名と言われています。たくさんの子どもたちの夢が奪われたのだと思いました。

私が考える平和とは、今の自分にある当たり前の日常だと思っています。それは、ご飯が食べられる、毎日学校へ行ける、ねむれる、勉強できる、友達と遊べる、笑える、家族がいて明るく、楽しく、けががなく安全に過ごせることです。その日常を奪う戦争は、絶対にやってはいけないと思います。戦争がない平和な世界とは、けんかや争いがないこと、仲間と協力して助け合うことです。世界では、今でもまだ戦争が起きているところがあるので世界中から戦争が無くなって欲しいです。

私たちは、戦争のない世界を作っていかなければなりません。戦争体験を語る人は、少なくなっていますが、戦争を起こさないように語り継いでいきたいです。